

平成28年度 第1回学校関係者評価報告書

鳥取県立智頭農林高等学校
 学校長 濱崎 公嗣

評価日	平成28年10月3日(月)	
委員	4名(元中学校長、保護者代表、企業経営者、本校卒業生)	
	評価・提言	学校の所見・改善策等
1	<p>前年度の最終評価について</p> <ul style="list-style-type: none"> 概ね適正に評価されている。 評価基準や現状把握も適切で、学校の努力の積み重ねが見える評価となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の指導力や実践力を外部にもっとPRしていきたい。 今後は事業を精選し、より生徒にとって意義のある内容にしていきたい。 改善策を検討・実施し、成果を出していきたい。 保護者や地域、関係機関と連携し、今後も継続して取り組んでいきたい。 地元中学校との交流事業に一層取り組み、本校の魅力をPRしていく。 地域連携の中でも生徒の育成に取り組みたい。 智頭町と連携したリーフレットを作成中。今年度完成予定。 評価基準・指標の見直しを図り、中間期でも総合的に評価できるようにしていきたい。
2	<p>前年度の県立学校裁量予算による特色ある学校運営の状況について</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校の特色を生かした様々な取り組みが地域連携を中心に実施されている。 生徒の取り組みは素晴らしいが、「やらされ感」はないだろうか。生徒自身のやる気があるのか気になる。 	
3	<p>今年度の評価計画について</p> <p>(1) 目標設定について</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度から「県版SPH」の取り組みが導入された。学校が変わる大きなきっかけとなるだろう。 学校の実状を公にすることで、今後の改善・発展につながっていくと考える。 特別支援を必要とする生徒がいると、高校では地域性が希薄なので「学びあい」は難しいのではないかと考える。 <p>(2) 目標達成のための取組について</p> <ul style="list-style-type: none"> 地域の中学校にもっとはたらきかけるべき。農林高校の良さが理解されていない部分がある。地元の子どもが行きたい学校をつくってほしい。 リーダー格の生徒を育てることで、学校が変わっていくのではないかと考える。 他県の成功例もあるので、県外募集をもっと積極的に進めてほしい。 <p>(3) 評価基準及び評価指標について</p> <ul style="list-style-type: none"> 生徒が変わってきているのに学校の評価が変わっていないところがある。 年度途中でも評価が出ることを望ましい。 	

<p>4 学校運営や予算に関する提言</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格取得については、前年度B評価だが、取得に向けて挑戦する生徒としない生徒の差が大きいのではないかと。基礎学力の見直しや学習を習慣化することで資格取得に意欲を示す生徒が多くなることに期待する。 卒業後の就労につなげるシステムをもっと明確にしてはどうか。可視化することで生徒も目標を持てるのではないかと。 特別支援の生徒が増えている実態に合わせて、発達・愛着障がい等のある生徒が学びやすい授業を工夫してはどうか。 地元の小中の保護者等へ各学科の専門性の高さをもっとわかりやすく示す工夫が必要。生徒募集につながるのではないかと。 学校のやる気、企画内容は十分理解できた。次に外に向けてのPRをしっかりとしていくことが大事。 地域のイベントに積極的に参加するなど、農林の生徒の姿を直接見てもらう機会を増やす。 「とは理論」の観点から「智頭農林とは」どんな学校なのかが一目でわかるものをつくってはどうか。学校目標や先生方の努力、生徒の頑張り等がわかりやすいもの。中学生の進路選択の参考だけでなく、進路先へのPRになるのではないだろうか。 進路に関しても目玉となるものがほしい。専門を生かした進路先だけでなく農林高校からも事務職へ行けることを示してほしい。受け皿の確保をお願いしたい。 進路希望調査の取り方・活用について、生徒の内面を引き出せるような調査にしてほしい。 <p>5 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> 県版SPH事業について、今年度の取り組み及び来年度の事業内容を資料等で説明。 来年度裁量予算について説明。学びあいの研究・実践やこころの教育の推進、智頭中学校との交流事業等、重点要求事業について解説。 教科書採択について、内容・経過説明を行い、委員の了解を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> 確かに二極化の傾向にある。教科指導や基礎学力の定着等を図り、上級取得にも取り組ませたい。 キャリア教育全体計画の見直し等も行っていきたい。 通級や自立活動等にも今後取り組む計画。 10月に智頭中との交流事業を実施する。 生徒募集に向けたポスターを作成中。 既存の学校案内等を見直し、よりPR効果が増すような創意工夫をしていく。 生徒に基礎学力をつけ進路に向かわせるとともに進路開拓も行っていく。 1年次の調査が2年インターンシップ等につながるような系統的な進路指導を行っていく。
---	--